

今年の開花はほぼ例年通りと言った
とJIN。

本年は特別な催しものはないと
せませんが、本堂では墨彩画の色紙展、
三三三ギャラリーでは梅の写真展や、木工
展、その他に景色盆栽といった少し珍
しい催しも行っています。

光受寺観梅会が始まりました。

飛龍梅も二月初旬には見頃を迎
え、楽しんでいただけるものと思っ
ています。

二月二十一日の春の永代経まで咲い
ていっかねばいいと思っておりますが、
きわどい感じですね。

「門徒の皆様にはぜひ会期中にお越
しいただけたらと思います。」



2月21日(土)～3月15日(日) 10時～16時



書と絵の色紙展(堂内)
秀瑠書院
2月28日(土)～
3月15日(日)
10時～16時まで
その他
手作りの水石鉢による景色盆栽展
ミズタニ企画 水谷 隆
木工作品展 玉井正治
写真展 青木貞雄



光受寺の御開帳
巨木巡礼 中日新聞(3月号)冊子



月刊「なごや」2月号



月刊 ぶらざ 2月号

四月十日は土手組 千日講

千日講について

四月十日(金)は千日講の当番会所に光受寺が当たります。
毎月十日は、本願寺初代の教如上人の御遺徳を偲んで、上、下、^{かみしも}二十ヶ寺が毎月交
代でお勤めをしているのです。

また毎年一年に一回二日間にあたりて報徳会が勤修されます。光受寺も平成三
十二年には会所となり、「門徒の皆さんに何かとお世話いただくことになるかと
思いますが、よろしくお願いいたします。」

土手組

秀吉の死後、豊臣家に代わって天下を取ろうとする徳川家康に接近する教如
上人の動きは石田光成にとって「家康の内通者」として看過することができませ
んでした。特に教如上人が関東へ下向し、下野国小山で家康と会見して上方における石田光
成方の蜂起の情勢を知らせ、陣中見舞いとして軍資金を進上した後、京都への帰路は命がけの
ものとなりました。一、六〇〇年八月、関ヶ原合戦直前の直前のこの美濃で石田光成が上人
を待ち構える中、墨侯で昏に襲撃されます。

窮地に追い込まれた上人は安八郡森部の光頭寺に避難されました。上人は本堂須弥壇の下
に隠れて、おぼやこれまで、「引き戸の板を外して、時世の和歌を短刀で刻まれたのです。」

散らざいと 森部の里に 埋めばや
かげはむかしの ままの江の月

その折、上人の危機を伝え聞いた二十ヶ寺の門
徒が、鋤、鍬、鎌を手に駆けつけ危ういところを
助け出し、護衛して京都へ向けて出発しました。
後にこの門徒組織を「土手組」と呼ばれ、本山直
参のお墨付きを与えられたのです。

参考 岐阜同朋 一一一四

会所 光受寺 九時半より 法話 組内法中